

【漁況】

【マアジ】

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、昭和40年の53万トンにピークに減少傾向となり、昭和55年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、平成8年には33万トンに増加し、平成10年までは30万トン台で推移しましたが、再び減少傾向に転じ、平成25年も15万1千トンと低調に推移しました。

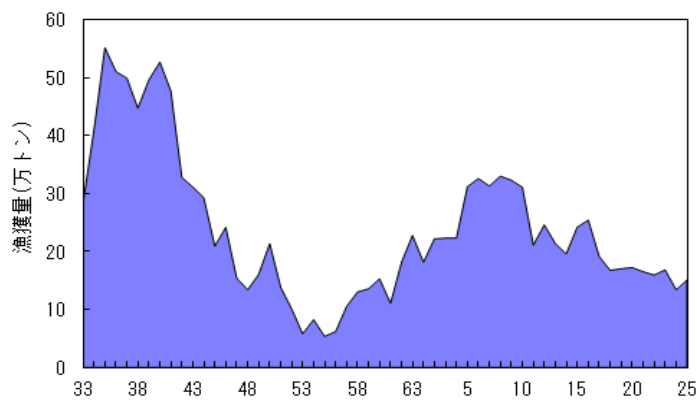


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の平成27年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺、阿久根沖、長島(内海)で漁場が形成されました。

薩南海域では、6月のみ立目埼沖、屋久島南東に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、マアジ仔・豆（1歳魚：平成26年生まれ）主体の漁獲がみられ、期全体で474トンの水揚げで、前年の162%及び平年の118%と好調に推移しました。

3. 県内の平成27年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、マアジ仔（0歳魚：平成27年生まれ）・豆（1歳魚：平成26年生まれ）で、マアジ小（1歳魚：平成26年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年・平年を上回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

2歳魚以上は低調に推移していますが、漁獲主体となるマアジ0歳魚、1歳魚が好調に推移しており、前年・平年を上回ると考えられます。

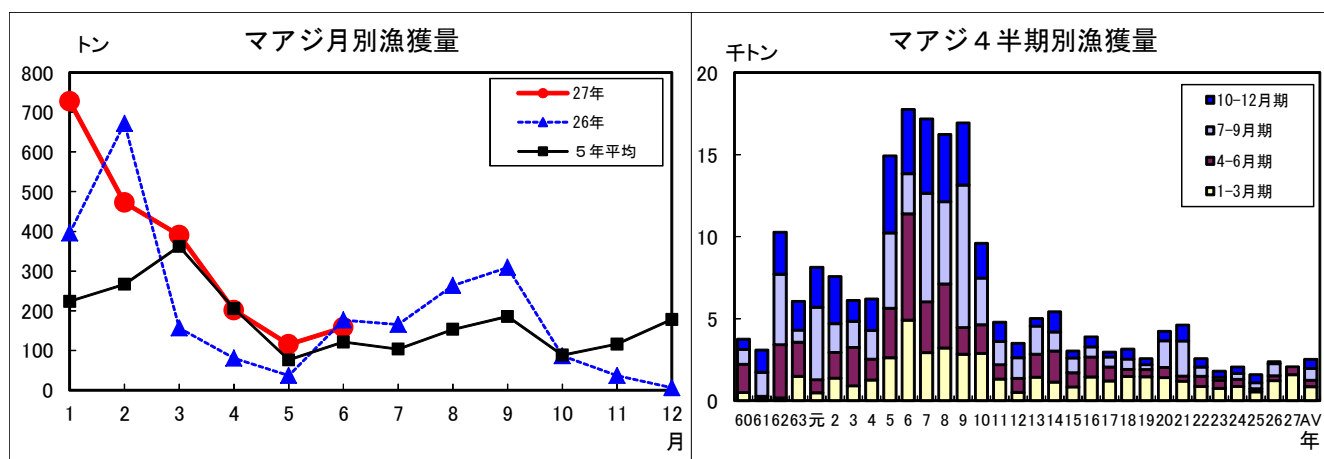


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚げ量を使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、昭和53年の160万トン进行ピークに年々減少し、平成3年には26万トンとなりました。

平成5年から増加に転じ平成9年には85万トンとなりましたが、平成14年には28万トンまで減少しました。

平成18年には65万トンまで増加しましたが、その後減少傾向となり、平成25年は38万6千トンとなりました。

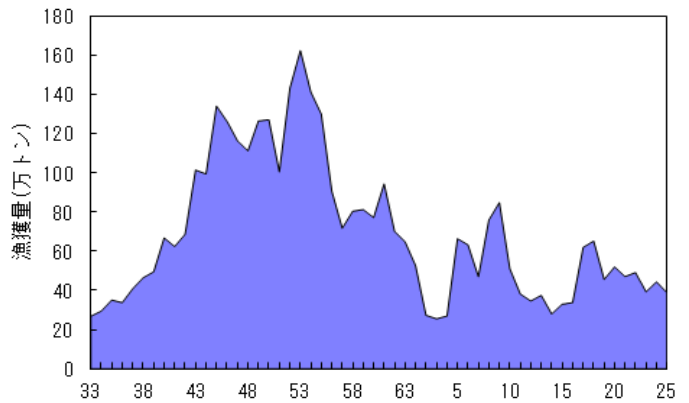


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 県内の平成27年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域では、馬毛島周辺、種子島周辺、内之浦沖、硫黄島沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、ゴマサバ中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）主体に期全体で4,794トンの水揚げで、前年の77%及び平年の95%となりました。

3. 県内の平成27年7～9月期の見とおし

漁獲の主体はゴマサバ中（2・3歳魚：平成25・24年生まれ）で、豆（0歳魚：平成27年生まれ）も混じるでしょう。

来遊量は、前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

1～6月の漁獲状況が昨年、一昨年と同様に推移していることから、前年並みの来遊になると考えられます。また、例年6月以降は0歳魚の加入が見られますので、0歳魚が混じると考えられます。

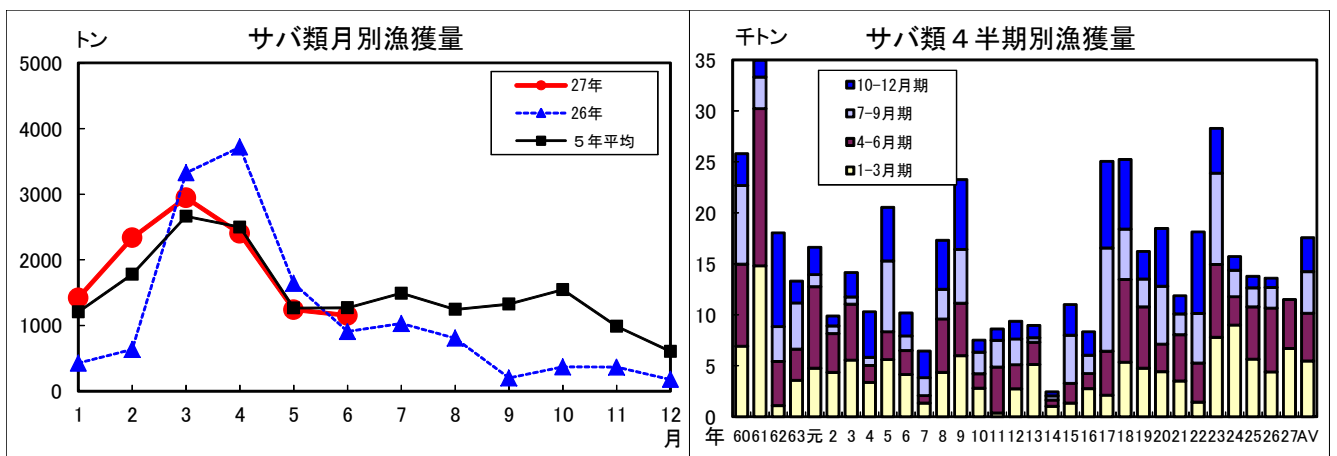


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、昭和30年代から40年代にかけての不漁期の後、昭和48年頃から増加の傾向が見られ、昭和63年には449万トンまで増加しました。

平成元年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、平成14から22年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、平成23年以降は10万トン以上に増加し、平成25年は22万トンで14年ぶりに20万トンを超える漁獲がありました。

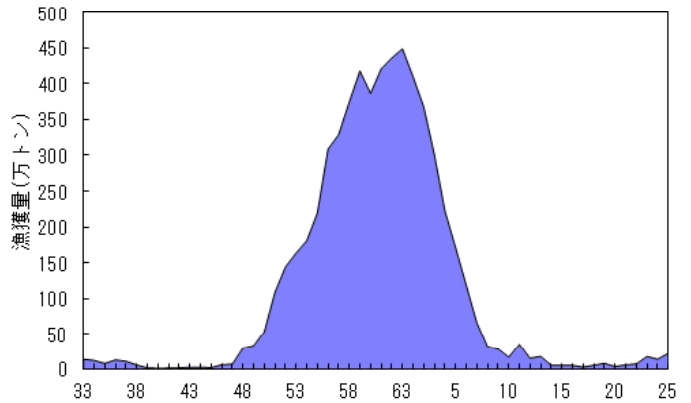


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 県内の平成27年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、6月のみ内之浦沖で漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽(0歳魚：平成27年生まれ)主体に154トンの水揚げで前年の32%、平年の16%でした。

北薩海域の棒受網は、29トンの水揚げで前年の62%、平年の17%でした。

3. 県内の平成27年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、小羽(0歳魚：平成27年生まれ)でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

(根拠)

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる0歳魚(平成27年生まれ)は、前期から低調な漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

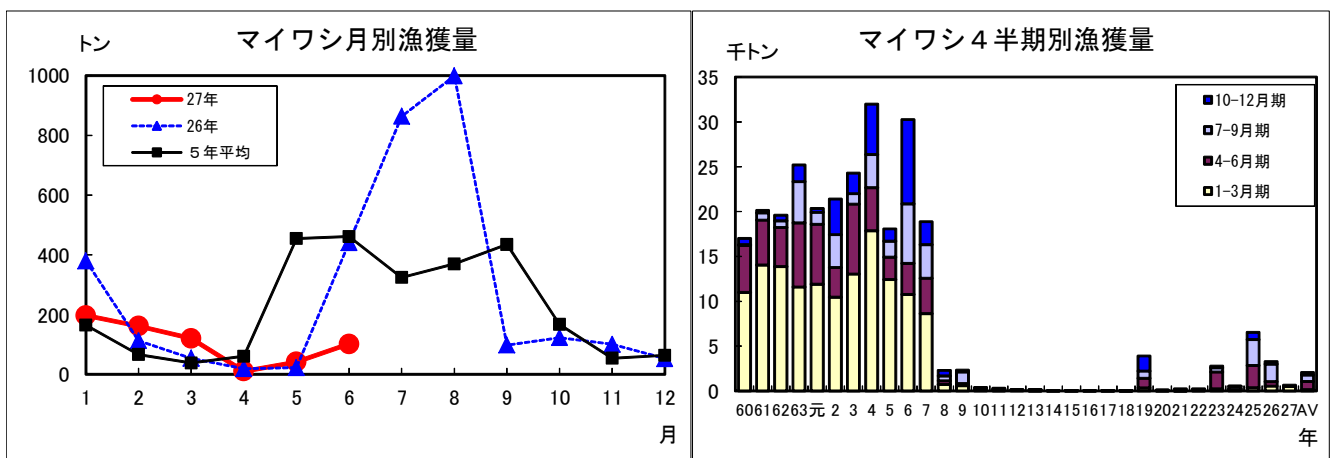


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年(平成22～26年)の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、昭和30年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、平成6年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ平成12年には2万4千トンまで減少しました。

平成15年以降は再度増加傾向に転じ、平成23年以降8万トンを超える高い水準で推移し、平成25年は8万9千トンで昭和33年以降では最高の漁獲量となりました。

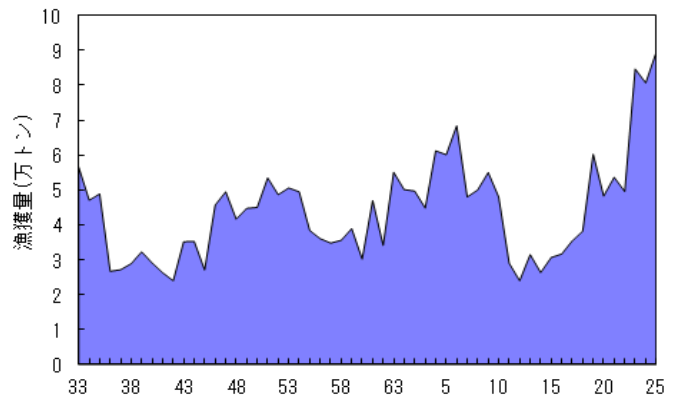


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

2. 県内の平成27年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、甌島周辺に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、枕崎沖、内之浦沖に漁場が形成されました。

北薩海域の棒受網では、川内沖から長島で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、小羽（0歳魚：平成27年生まれ）主体に507トンの水揚げがあり、前年の40%、平年の39%でした。

北薩海域の棒受網では、59トンの水揚げで前年の36%、平年の40%でした。

3. 県内の平成27年7～9月期の見とおし

漁獲の主体は、小羽（0歳魚：平成27年生まれ）でしょう。

来遊量は前年・平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期漁獲の主体となる0歳魚（平成27年生まれ）は、前期から低調な漁獲が続いているため、来遊量は前年・平年を下回ると考えられます。

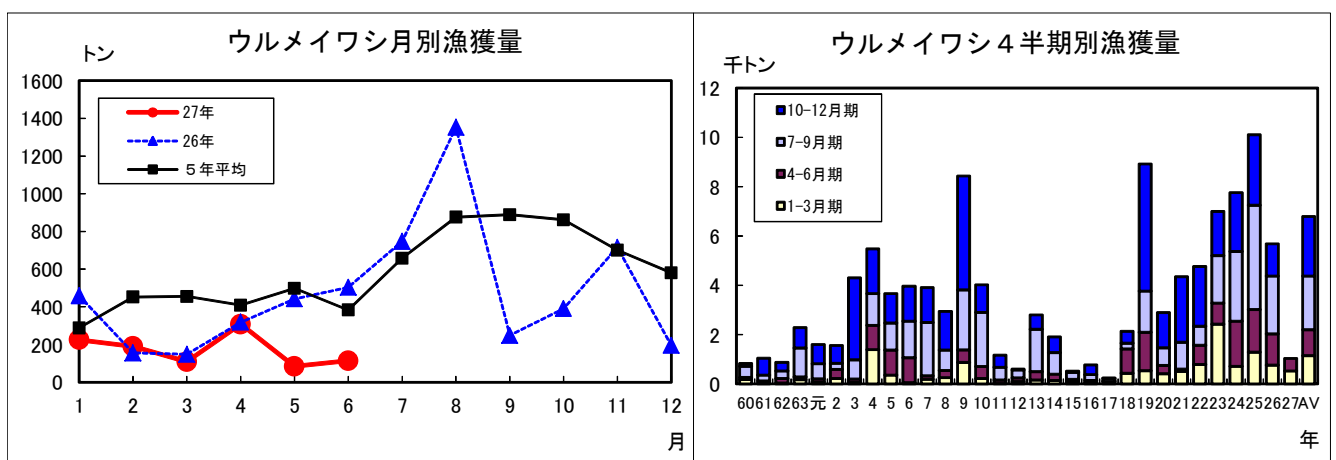


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚げ量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、昭和48年まで30万トン台で変動していましたが、昭和49年以降減少傾向となり昭和54年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、平成15年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、平成25年は24万7千トンとなりました。

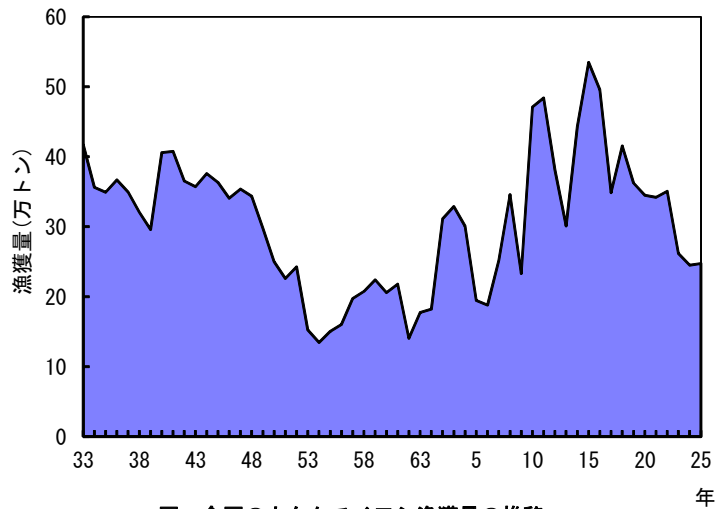


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の平成27年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、長島（内海）、川内沖に漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、内之浦沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中羽（平成26年生まれ）主体に759トンの水揚げで、前年の96%、平年の90%でした。

北薩海域の棒受網では、長島（内海）、川内沖に漁場が形成され、中羽（平成26年生まれ）主体に272トンの水揚げで、前年の101%、平年の89%でした。

3. 県内の平成27年7～9月期の見とおし

中羽（平成27年生まれ）と大羽（平成26年生まれ）が漁獲の主体で、来遊量は前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況は、好漁であった前年と同様に推移していますが、西薩海域の昨年秋季バッチ網の漁況は平年並だったことから、来遊水準は好漁であった前年は下回りますが、平年並の来遊は見込めると考えられます。

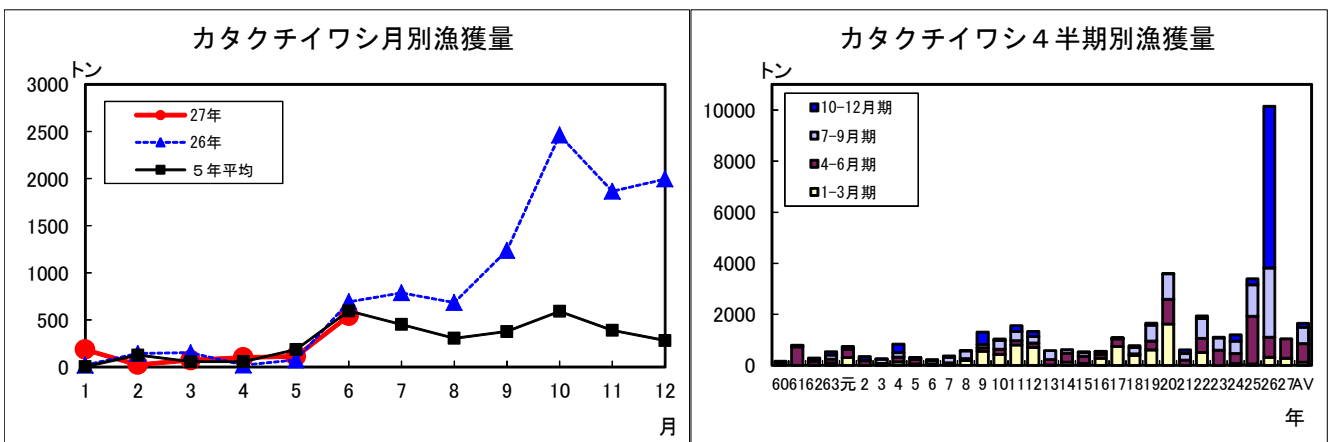


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚量を使用

[シラス]

1. 経年経過及び平成 27 年 4～5 月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成 11 年の 5,450 トンをピークに減少傾向を示し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調に推移しましたが、平成 17 年以降減少傾向を示し、平成 26 年は平成 11 年以降では最低の 794 トンとなりました。

志布志湾海域では平成 14 年は 396 トンで特異的な不漁、平成 19 年は 2,374 トンで特異的な好漁の年もありますが、平成 11 年以降 700～1400 トンの間で推移してます。平成 26 年は 1,247 トンとなりました。

今期の西薩海域の漁況は、4 月は低調、5 月は好調で、カタクチシラス主体に 702 トンの水揚げがあり、前年の 180%，平年の 81% でした。

志布志湾海域の漁況は、4 月、5 月ともに低調で、カタクチシラス主体に 50 トンの水揚げがあり、前年の 12%，平年の 13% でした。

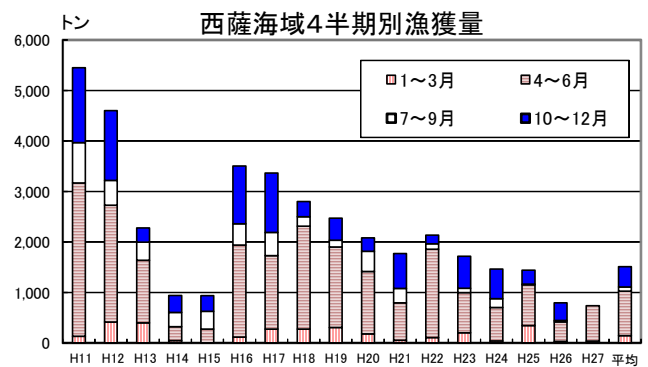
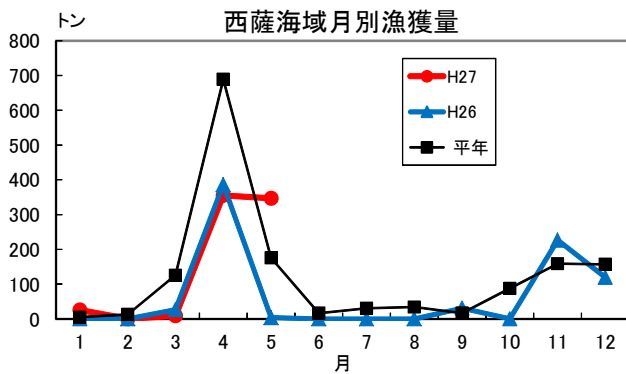


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (4 漁協計)

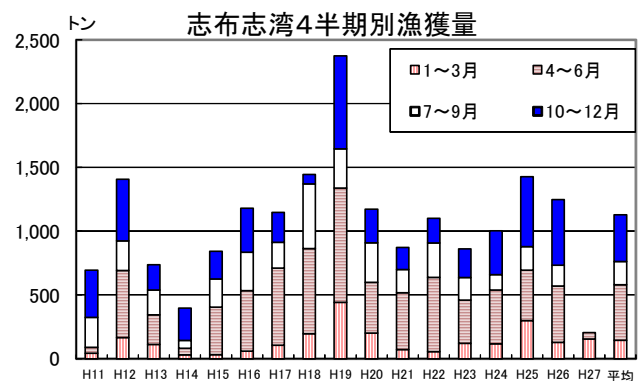
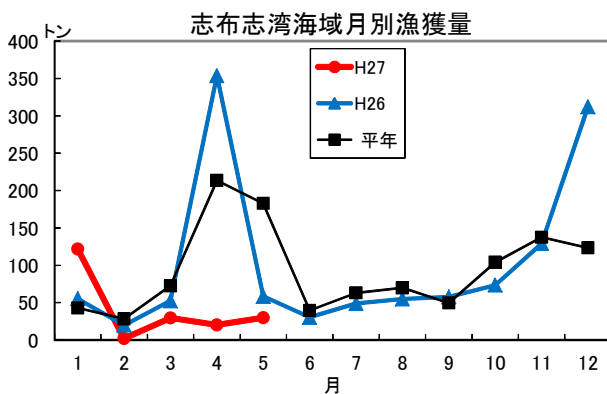


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化 (2 漁協計)

※平年値は過去 5 年（平成 22～26 年）の平均値 (AV)，平成 27 年 5 月 31 日までの水揚げ量を使用

[イワシ類参考資料]

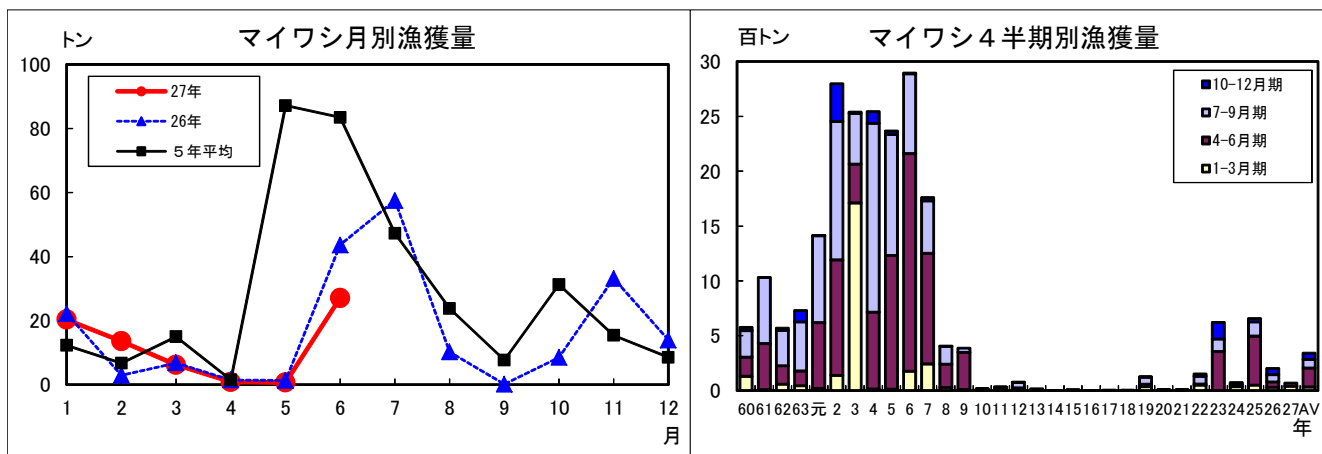


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

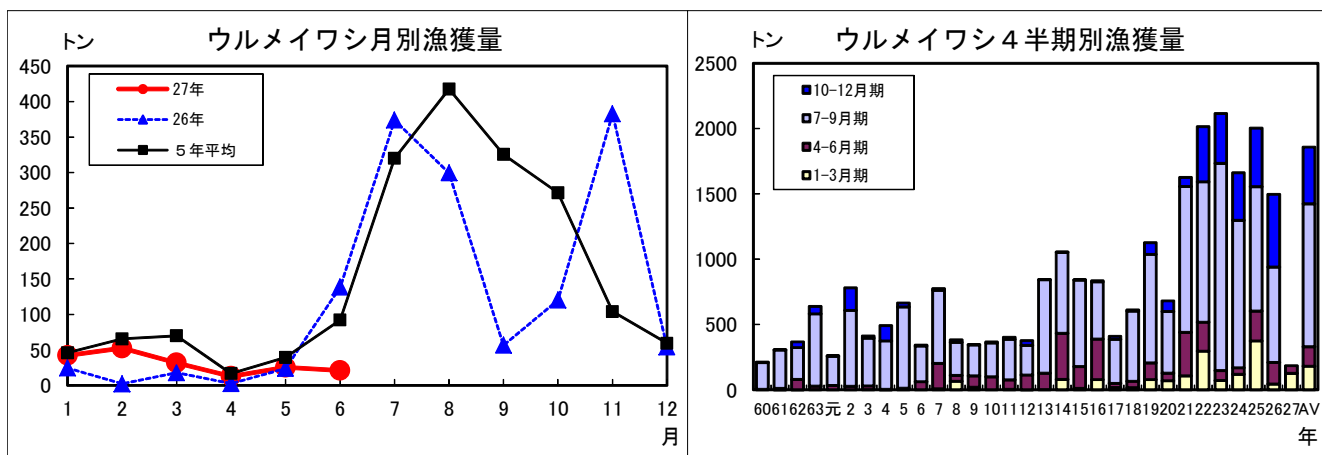


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

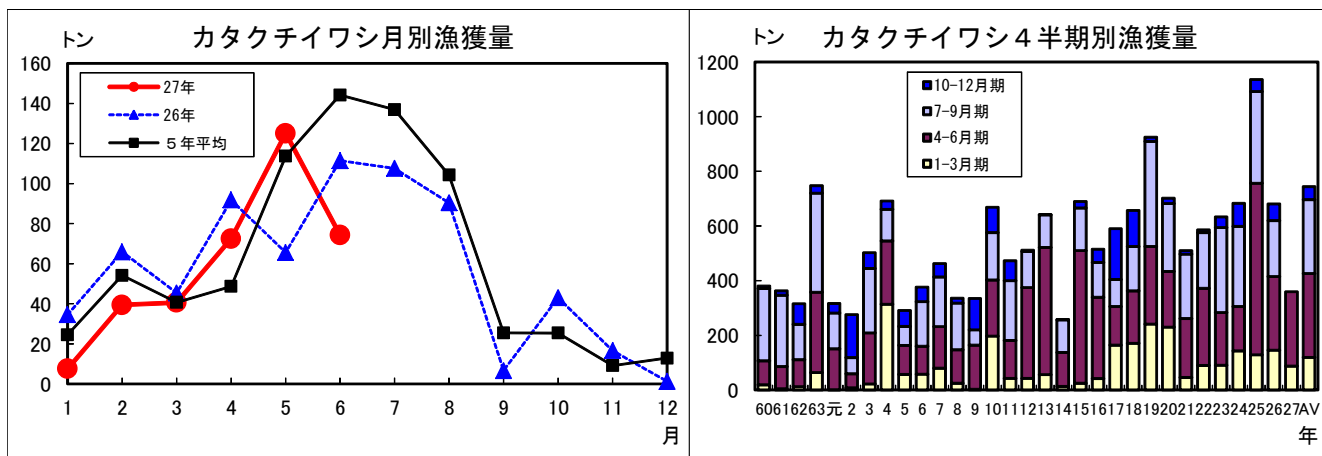


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年(平成22~26年)の平均値(AV),平成27年6月24日までの水揚量を使用

[参考：漁況経過のみ記載]

〈ムロアジ類（クサヤモロ、モロ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成27年4～6月期の漁況の経過

ムロアジ類の漁獲量は、平成2年の21,700トンピークに急減し、平成6年以降は、1,500トンから4,500トンの間での推移しており、平成26年は1,936トンとなりました。

平成27年4～6月は、6月のみ臥蛇島で漁場が形成され、期全体で176トンの水揚げで、前年の66%及び平年の39%と低調に推移しました。

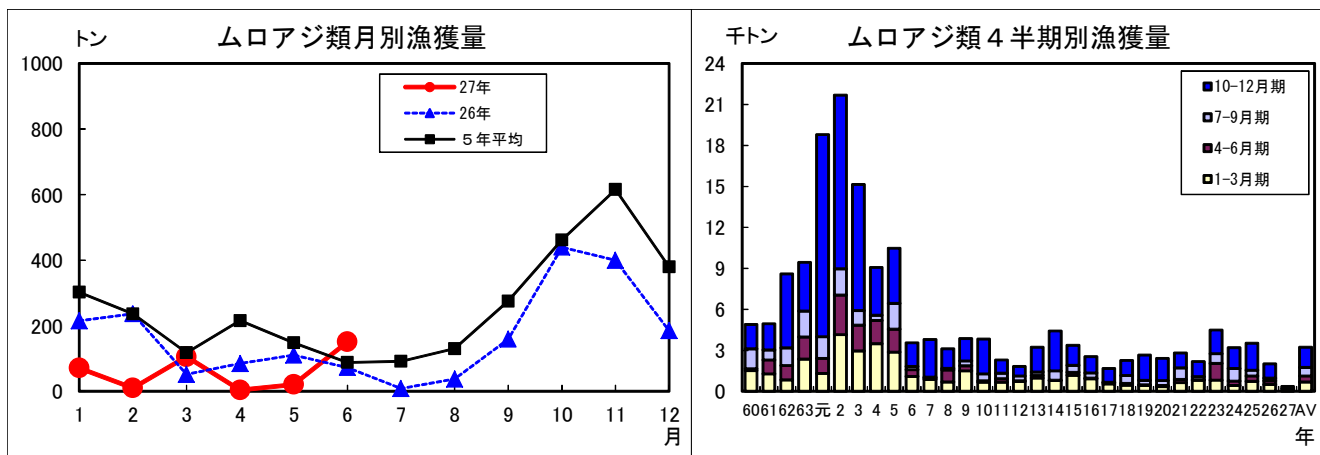


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚量を使用

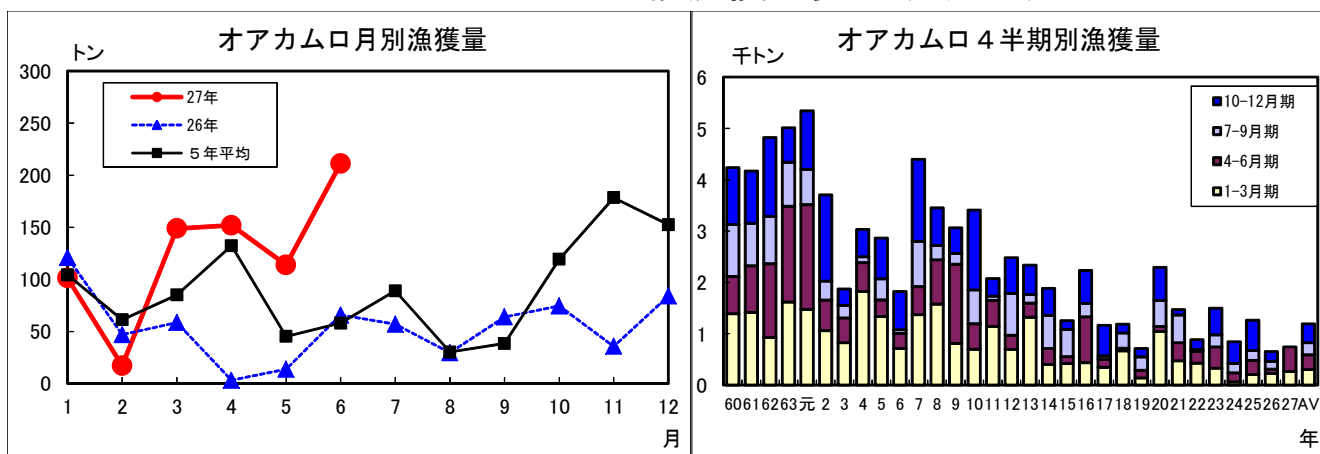
〈オアカムロ（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成27年4～6月期の漁況の経過

オアカムロの漁獲量は、平成元年の5,300トンピークに一旦減少し、平成7年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となっていました。平成20年は2,291トンと一旦増加しましたが、再び減少傾向で平成26年は630トンとなりました。

平成27年4～6月は、屋久島南、屋久新曾根でオアカムロ中、中小主体の漁獲が見られ、期全体で477トンの水揚げで前年の577%及び平年の203%と好調に推移しました。

図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)



※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

1. 経年変化及び平成27年4～6月期の漁況の経過

マルアジの漁獲量は、昭和62年から平成元年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、平成12年から15年に再度ピークを迎え15年には3,150トンと最高を記録しましたが、平成16年以降は低調に推移し、21年は過去最低の94トンとなりました。

22、23年はやや増加したものの依然低調でしたが、26年は643トンと増加しました。

平成27年4～6月は、長島（内海）、串木野沖でマルアジ大、中主体の漁獲が見られましたが、期全体で47トンの水揚げで、前年の33%及び平年の49%と低調に推移しました。

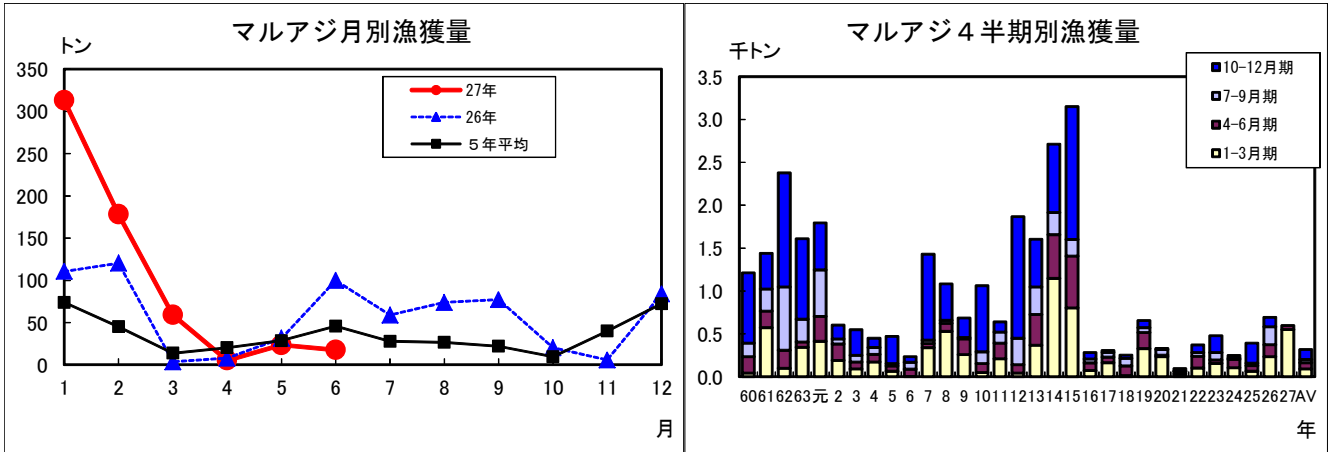


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年（平成22～26年）の平均値(AV)、平成27年6月24日までの水揚げ量を使用